

平成28年度 グループホームふるさと 桜 事業計画

【基本方針】

住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する。

【年間目標】

- ①良質なサービスの提供
- ②家族との連携
- ③地域との連携
- ④自立支援に向けた取り組み
- ⑤目標稼働率97%を目指す
- ⑥経費削減を図る

【実践計画】

①良質なサービスの提供

- ・適切な接遇対応
 - 丁寧な言葉遣いと態度で接する。(入居者、来客者、職員間)
- ・認知症状態に応じた専門的ケアの実施
 - 定期的に認知症状の状態確認を行う(認知症簡易テスト実施)。
- ・安全管理の徹底
 - ヒヤリハット及び事故の検証を行い再発防止に努める。
(リスクマネジメント)
 - 感染症対策(インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒等の予防と発生時における対応の整備)
 - 健康管理の実施(定期健康診断)
 - 各設備の点検及び整備。(車輛、機械関係、エレベーター、消防設備等)
- ・チームケアの実施
 - 定例ミーティング(週1回)及び会議(月1回)開催を通し、職員全体において情報の共有化と統一したケアの実施を行う。
 - 職種間の連携をとり、心身の状態に応じたケアを実施する。
- ・サービス支援
 - アセスメントにおいてセンター方式(簡易版)を活用し、利用者及び家族のニーズに沿ったサービス計画書の作成、計画書に基づいたサービスの実施。
- ・余暇活動を充実させる
 - 外出や外食レクリエーションなどの定期的な開催。
 - 掃除や洗濯などの家事における、利用者一人一人に合った役割の提供。

- ・ 職員のスキルアップ
 - 認知症ケアに関する施設内研修の実施及び外部研修への参加を促進。
 - 個人年間目標を立て、定期的な自己評価及び面談の実施。
 - 勉強会年間計画を作成し、計画的な職員教育を実施。
 - 定期的に小テストを実施し、知識の向上を図る。
- ・ 定期的なサービスの評価
 - 第三者評価、自己評価を年1回実施。

② 家族との連携

- ・ 行事等に対しご家族への呼びかけを行い交流の機会を持つ。
- ・ 定期的にケアカンファレンスを行う。(個別)
- ・ 年2回家族会を開催する。

③ 地域との連携

- ・ 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域への情報の開示および情報交換を行う。
- ・ 地域交流や社会資源の活用を通し、地域を基盤とした生活が継続できるよう支援する。
- ・ 地域ケア会議、ふれあいのまちづくり協議会、グループホーム連絡会への参加。

④ 自立支援に向けた取り組み

- ・ 食事、排泄、運動、水分、口腔ケアを中心に生活支援を行う。
 - 食事：個々に応じた栄養摂取量と食事形態の提供。
 - 排泄：トイレでの排泄維持を支援。下剤に頼らない排便調整。
 - 運動：幅広い活動の場の提供。(歩行含む)
 - 水分：1日1500cc以上の水分提供。(疾患により異なる)
 - 口腔ケア：口腔内の清潔保持及び歯(義歯含)の維持管理。

⑤ 目標稼働率97%を目指す

- ・ 異常の早期発見、早期治療により入院者を減らす。
- ・ 退所後は速やかに次期入所者の移動を行う。
- ・ 地域ケアマネージャーとの情報を密にし、待機者を増やす。

⑥ 経費削減を図る

- ・ 運営費用に対する意識の向上
 - 定期的に水光熱費や食材費を提示し、職員全員に費用に対しての意識付けを図る。

- ・ 備品、消耗品購入費の削減

- 備品、消耗品購入に関し、数社の販売価格を確認し費用削減を図る。

- 物品購入状況を毎月確認し、使用状況に無駄がないか定期的に評価をする。

- ・ 水光熱費の削減

- 季節に合わせた空調の設定温度、照明の点灯時間を決め、無駄がないようにする。